

参考コースタイム: 竜王山～中山  
勤労者山岳連盟・高松労山

参考コースタイム: 大川山～竜王山  
勤労者山岳連盟・丸亀しわく山の会

**横畑(よこはた)・平家の落人伝説の地**  
1185年屋島の壇ノ浦で源平合戦で敗れた平家の落人の地として伝わっています。横畑の集落で一番古いと言われる宮本家は平久盛の子孫だと伝わっています。  
平家の落人一行7人は、横畑からさらに祖谷へ落ち延びるつもりでしたが、兵の疲れが激しいのでひとまずこの地で落ち着くことになりました。持っていた旗さしものを横に寝かせたことから「横旗」→「横畑」になったとされています。この地は、不思議な地形で南に面した山肌は比較的緩やかで、ふもとから見通すことができない絶好の地となっています。横畑からは遠くまで見渡すことができます。

**竜王山(りゅうおうざん)**  
竜王山は、香川県と徳島県の県境の讃岐山脈(阿讃山脈)の中央に位置する標高1059.8mの香川県最高峰の山です。香川のみどり百選に選定されており、別名は鷹山(たかやま)とも呼ばれています。  
香川県側は高松市と仲多度郡まんのう町に属し、大滝大川国立自然公園に指定されており、徳島県側は美馬市に属しています。2つの峰をもち、東の峰は讃岐竜王(東竜王)、西の峰は阿波竜王(西竜王)と呼ばれ、讃岐竜王は標高1,058mで三角点が設置されており、阿波竜王は標高1,059.8mで四等三角点設置されています。阿波竜王の三角点はまんのう町に位置し、香川県の最高峰となっています。  
現在はふもとにある竜神を祭った神社が、かつては山頂にはあったことから竜王山と呼ばれるようになったといわれています。別名の「鷹山(たかやま)」はこの山が高松藩主の鷹狩をした場所と伝えられています。

**見張り櫓跡**  
1185年屋島壇ノ浦の源平合戦で敗れた平家の落人が横畑に住み着き、外からの襲撃に備えて櫓を建てて侵入者の見張りしていたところです。ここから三頭越えをするところも見えます。見張り番は、ここから100mほど横畑におりたキビチリ屋敷に住んでいたと云われています。キビチリ屋敷跡には、10基ほどの自然石の墓が並んでいます。見張り、峠の上だけでなく横畑の集落の入り口にも木戸を設けて怪しい侵入者を見張っていました。

**寒風越(峠) (さむかぜごえ・さむかぜとうげ)**  
名前を聞いただけでも寒くなりますが、この峠は横畑の人々が生活用品の買い出し、農機具の修理や部品購入、急病人が出た時の医者の迎えなどに行くの使った道です。峠を越え阿波の郡里(こうざと)や黒砂(くろすな:現・美馬町)まで行きます。阿波からこの峠を越えて横畑に嫁に来た人も多いそうです。

**三頭越(さんとうごえ)/三頭峠(さんとうとうげ)**  
標高795m。三頭の名の由来は、峠の南東にある三頭山の山頂にある三頭神社で剣靈、山王、清竜(青竜)の3社が祀られていることによります。  
峠道は古より讃岐と阿波を結ぶ主要な道の一つで、仲多度郡・綾歌郡一帯の耕作のため、**借耕牛(かりこうし)**の行き来があり、その数は昭和初期には8000頭にも及んだそうです。  
徳島県側からは金毘羅宮参詣のための金毘羅街道として、香川県側からは三頭神社参詣道としての往来も盛んで、旧峠道には「安政四巳歳」の銘がある高さ3.6mの鳥居が残っており、その徳島県側の石額には「金毘羅大権現」、香川県側には「三頭山大権現」と刻まれています。  
長らく自動車の通行が不可能ないわゆる点線国道の状態でしたが、1997年に三頭トンネル(全長2648m)を含む自動車道路が開通しています。

**借耕牛(かりこうし)**  
讃岐山脈には、讃岐と阿波を行き来していた街道がいくつかあります。その峠道には農繁期に「借耕牛(かりこうし)」と呼ばれる農耕牛がこの道を通って讃岐に来ていた歴史があります。  
借耕牛は、阿波の山間部は草資源が多く牛を飼いやすく、反対に讃岐の平野部は水田が多く稲わら、麦わらは副業に使用するため、草資源に乏しく、牛を飼うのが容易でなかったなどの事情から讃岐では夏と秋の農繁期に徳島の山間部の農家から農作業のために賃借りする牛のことを「借耕牛」というようになったといわれています。  
古くは江戸時代の中期の文化年間(1804~1818)の頃から始まったといわれ、昭和30年代まで続いていました。

**道の駅ことなみ**  
標高:435m  
温泉施設あり

一ツ内 バス停

四国三大急登

キャンプ場  
大滝山県民いこいの森

